

【短報】大東諸島におけるゴミムシダマシ科4種の記録

大東諸島は、珊瑚礁の隆起によって形成された島々で、沖縄本島から約 340 km 東に位置する。同諸島には、戦前に台湾から導入されたオオヒキガエル *Bufo marinus* や 1970 年代に宮古島から導入されたミヤコヒキガエル *Bufo gargarizans miyakonis* が高密度で生息しており、地表性昆虫にとって非常に大きな脅威となっている（草野，2002；当山，2002）。そのことから、同諸島固有種のダイトウスナゴミムシダマシの生息状況も憂慮されている（秋田・益本，2016）。筆者の一人松島は 2018 年 3 月初旬に北大東島および南大東島において、本種を含むゴミムシダマシ科 4 種を採集したのでここに記録する。なお、採集は全て松島が行い、標本は全て秋田が保管している。

アマミホソゴミムシダマシ *Corticeus maehleri amamiensis* (Kaszab)

1ex., 南大東村池之沢, 6. III. 2018.

ダイトウスナゴミムシダマシ *Gonocephalum aokii* Akita et Masumoto



図1.ダイトウスナゴミムシダマシ（左：♂；右：♀，スケールバーは5 mm）。



図2.ダイトウスナゴミムシダマシの♂交尾器（左：背面；右：側面）。

19exs., 北大東村中野, 3～4. III. 2018; 3exs., 北大東村港, 3～4. III. 2018

オオツヤホソゴミムシダマシ *Menephilus arciscelis* Marseul

1♂, 北大東村南, 3. III. 2018.

マルセルエグリゴミムシダマシ大東諸島亜種 *Uloma marseuli fujitai* Masumoto

9exs., 南大東村旧東, 5. III. 2018; 7exs., 北大東村南, 3. III. 2018.

なお、アマミホソゴミムシダマシは北大東島における記録はあるが（秋田・益本，2016），南大東島の記録はこれが初めてである。また、ダイトウスナゴミムシダマシのこれまでの記録は、2008 年に北大東島の西港で採集されたホロタイプのみであった（Akita & Masumoto, 2013）。本種は、日中に隣接したがれ場や西港の燐鉱石貯蔵庫付近のいずれも日当たりの良い石下から採集された。土壌は、乾燥したサンゴ礁由来と思われる白色の砂地に大小様々な礫が転がっているような環境であった。1つの石下に 5～6 個体が発見されることもあり、個体数は少ないものではない。また、夜間、西港でコンクリート壁面を歩く個体も確認した。砂浜でも探したが、本種を発見することはできなかった。南大東島においても同様の環境で本種を探したが、見つめることはできなかった。今回採集した標本の多くは、付属肢が欠損したり、背面の毛が少なくなっていたことから、新成虫は、他の同属種同様、晩夏から秋にかけて出現するものであろう。

末筆ではあるが、採集に協力してくださった下津克紀氏および大宮悠氏、標本写真を撮影してくださった栗原良輔氏、原稿をご校閲いただいた筑波大学生命環境系の横井智之助教にこの場を借りて厚く御礼申し上げる。

引用文献

- Akita, K. & K. Masumoto, 2013. New or little-known tenebrionid species (Coleoptera) from Japan. (14) Six new species and three new subspecies from various areas in Japan. *Elytra*, new series, 3: 237-254.
- 秋田勝己・益本仁雄, 2016. 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. 302 pp., 107 pls. むし社, 東京.
- 草野 保, 2002. オオヒキガエル. Pp. 105. 日本生態学会(編): 外来種ハンドブック. 408 pp. 地人書館, 東京.
- 当山昌直, 2002. ミヤコヒキガエル. Pp. 104. 日本生態学会(編): 外来種ハンドブック. 408 pp. 地人書館, 東京.

(松島良介 305-8572 つくば市天王台 1-1-1
筑波大学保全生態学研究室)

(秋田勝己 514-1136 津市久居東鷹跡町 170-2)